

7月11日に投開票がおこなわれる参院選は昨年8月の衆院選と多くの点で異なつてゐる。特に新潟においては他県では見られない以下のようないくい。事情もあり、その差はとても大

新潟國際情報大
情報文化学部長

越智 敏夫



おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶應大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

新潟における参院選

多い。しかし新潟には改選をむ
かうの用意はない。(ミニ)

自民が立議席を現有していることが多い。しかし新潟

民主現職の田中直紀氏は自らの移籍組で、全任期を民主党議員として活動したわけではない。くわえて同氏は「田中党」ともいすべき支援組織を備えており現在でも民主党のイメージが薄い。つまり今回の新潟では民・自といつ対立図式が見えにくい。

さらに新潟の場合、全国的には例外的である社民党現職が改選を迎える。そのうえその現職が社民党内でも例外的に連立支持を表明し、党籍を残してしまったまま无所属で立候補するというわかりにくい状態になつてい

非対立の構図に意義

ここで参院がもつ本来の意義について考えてみると、それはとても単純で「衆院と違う」ということだ。よくいわるようくに参院が衆院と同じであれば「無駄」だし、違うと「邪魔」である。

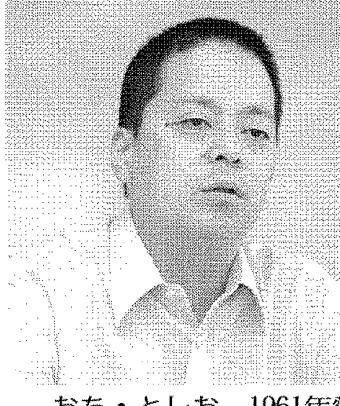
以上のようないくつかの理由から参院新潟選挙区では他県と異なる構造が生じ、それが有権者にとって理解しにくいものになつてゐる。昨年の衆院選では自民対民主という構図がすべての選挙区で成立し、非常に単純だったことと対照的である。問題なのはこの事態の意味である。私はこの点について政治と市民の関係について考えを深める好機だと判断している。

7月11日に投開票がおこなわれる参院選は昨年8月の衆院選と多くの点で異なっている。特に新潟においては他県では見られない以下のような事情もあり、その差はとても大きい。

まず他県で一般的な民主対民という構図が新潟では成立していない。本県のように改選数が2議席の場合、自民が1議席を現有していることが

新潟国際情報大
情報文化学部長

越智 敏夫



おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶應大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

らこそ、政党名ではなく各候補りも他の産業を発展させるべき者の意見を投票の根拠とするし、だと思った県民もいるだろう。個かないからだ。昨年の衆院選と人によって損得が異なるのは子は異なる根拠で投票することに、ども手当や高速道路無料化になるだろうし、全国の選挙報道ど、他の政策でも同じだ。高速ではわからない新潟独自の問題、道路は使わなければ、そこをについても注視する必要がでて、走るトラックで運ばれる野菜をくるだろう。